

【重要】資料の取扱いについて

× 禁止されていること

- ・ 資料の加工、編集
- ・ 無断転載、引用

「障害のある子どもと関わって下さる方へ」

横浜市北部地域療育センター

ソーシャルワーカー：齊藤共代

はじめに……障害ってなに……？

- 病気やけがとはちがうもの？
- 障害とは……病気やけがのために体の組織や器官が傷ついたり、失われたりして、人間が社会生活をしていくうえで必要な力の一部が元にもどらなくなったことをいいます。
- 機能的・器質的な障害があっても、そこを補うものがあれば「障害」にはなりません。
- 「補うもの」は皆さんの「理解」と「対応」です。
- 「安心・安全な環境」がどの子にも必要です。
- 子どもたちにとって「安心・安全な環境」とは
 - 皆さんの存在です。

運動発達障害・・・

原因がわかるものとわからないものがあります。

- 歩行に代表される運動機能の障害です。
- 知的障害を伴っている場合とそうでない場合があります
- てんかんや呼吸障害などの病気、視覚や聴覚の障害などを合併している場合もあります
- 「身体障害者手帳」知っていますか？

脳性まひ 二分脊椎 重症心身障害
などなど

- * 多くのお子さんは生まれてすぐ障害がわかります。病院や療育センターで早くからケアや療育を受けています。
- * お子さんの病気や障害の特徴をよく知り、適切な介助の仕方、姿勢のとり方、語りかけの仕方を保護者の方と共有しましょう。

知的障害・・・

原因がわかるものとわからないものがあります。

- ・ 知的な能力や社会生活能力が平均より有意に低く、18才未満の発達期にあらわれます。
- ・ 昔は・・・「知恵おくれ」「精神薄弱」といわれていました。
- ・ ダウン症の子どもたち・・・人なつっこくて、明るいよ。
- ・ 知能検査により判定されます。・・・「愛の手帳」知っていますか？
- ・ 知能指数だけではなく「適応力」も含めてその人の「能力」です。

発達障害とは

「・・・自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発言するものとして、政令で定めるものをいう」

(発達障害者支援法より)

自閉症スペクトラム(自閉症・アスペルガー)・・・

原因はわかっていません。

- 環境や育て方によるものではありません。

「脳の機能障害」といわれています。先天的な障害で生涯に渡り続きます。知的障害がある人とない人がいます。

- 映画「レインマン」TV「光とともに」
- 特徴は・・・

1. 社会性の発達が遅れる

(周囲の人や友達に関心が薄い、または上手く関われない、集団行動がとれない等)

2. 言葉の発達が遅れる。

(お話が上手くできない、言われていることがわからない、言葉でやりとりが出来ない等)

3. 「こだわり」や「興味の偏り」がある。

(道順、モノの位置、手順等)

多動症候群・・・原因はわかっていません。

- 「**脳の情報処理**」が上手くいかない障害いわれています。

「脳に入ってくる様々な情報（刺激）を上手に処理できないためにおこると考えられています。

- 特徴は・・・

1. **多動**（じっとしてられない、落ち着きがない）
2. **衝動性**（かっとなりやすい、すぐ手が出てしまう）
3. **注意障害**（気が散りやすい、集中出来ない）

- つまり「ブレーキ」の効きが悪い状態なのです
- どうやって関わればいいのでしょうか？

学習障害(LD)・・・原因はわかっていません。

- 脳の機能障害」といわれています
- 「エジソン」だって学習障害？！
- 特徴は・・・知的には遅れがないのに、「読む」「書く」「計算する」などの能力が他の能力に比べ、著しく落ち込んでいる状態。
 - 努力しても「出来ない」劣等感を抱きやすい。
 - 出来ないところを責めず、本人の得意なところを伸ばし、「自尊心」を高めることが重要



発達障害がある子どもたちの特徴と対応について

① 見る > 聞く

見て理解する力のほうが優れている

→ 「見えないものは理解しにくい」

→ その代表は・・・話し言葉！

例えば・・・

お話を長い間きけない。

言い聞かせても、目が泳いでしまう。

怒られてもピンときていない。

② 「記憶する」

> 「考える、工夫する、想像する力」

→ 「ことばからイメージする力が弱い」 → 抽象的な表現がわかりにくい

例えば・・・

「ちょっと」ってどれ位？ 静かにしなさい！

仲良くしよう

よく考えなさい！ いま何する時間？！

- ③ 「興味のあること、無いことの差が激しい」
「得意、不得意の差が激しい」
→ 「好きな事」はやるけど、「嫌いなこと」はやろうとしない

例えば・・・

「紙芝居」は良く見るけど、先生のお話になると席を立つ

興味があるものは熱中して取り組むが、それ以外はやろうとしない

誰かと過ごすよりも、1人で好きなことをしている方を好む

極端に不器用

- ④ 独特の感じ方、感性のようなものがある
→ 「他の人が気にしないことが気になる」

例えば・・・

洋服が濡れると着替えたがる
好きな感触に没頭する
特定の音を嫌がる
独特の観点での楽しみ方がある
おいしいと思えるものが限られている
人がたくさん居るところは落ち着かない
触られたり、つかまれたりするのを嫌

まとめ:障害をお持ちの方により対応



対応のポイント①

「見て分かりやすい環境」をつくろう

言葉で言い聞かせればわかる？

→ 言葉は見えない、わかりにくい

「場所」と「時間」と「活動」

→ 「どこで」「何を」「どれ位」やる？

例) 遊び方・・・「どこで」「何を」「どうやって」

お片づけ・・・「どこに」「何を」「どうやって」

おやつを食べる・・・「どこで」「いつ」

「何を」「どれくらい」

対応のポイント②

「見通しを伝える」 「あらかじめ伝える」

行動の手順を、事前に示す

→行き当たりばったりは不安、予測できると安心

→修正されるのは嫌、変更は苦手

〇〇したら、～しよう。相手のタイミング に合わせられない。

例) 10数えたらおしまいにしよう

この本を読んでおしまい

(園などでは遠足、運動会など・・・予め活動を伝える、ビデオを見せることも有効)

対応のポイント③

「あいまいな表現を避け、具体的に示す」
物を見せて伝える

「肯定的な表現」「短く」話しかける。

言葉はだいたいあいまいなもの…

なんか何も言わせないの！なんでこんなことするの！

△しないと○できないよ！←効き目なし

ダメ出しは焦らせて逆効果

例)「〇〇しようね！」という肯定的に。

対応のポイント④

「環境・刺激を整理する」環境を変える

子どもが気が散る状況を作らない。

まず大人が整理整頓して関わる

何をすればよいか見たらわかる状況を作る

混乱したときは、たくさん喋りかけない

対応のポイント⑤

好きなこと、興味あることを活用する

好きなことをリサーチ

一緒に遊んで信頼関係を作る

好きなことを尊重する

変った遊び方でも認めて楽しむ

対応のポイント⑥

「出来ないところに目をつぶり、良いところ探し」

発想の転換を・・・

出来ないことを叱るより、出来ることを褒める！

「叱らない！」← 「何も手立てをしない」こととは違います

ユニバーサルな子育てを目指して…

- 「障害」はかるくできる？！

障害を持つ子どもについて、理解し、学ぶことが子どもたちの障害をかるくします。周囲の理解が子どもたちの社会参加を促進します。

- 診断がつくこととレッテルを貼ることとは違います。

診断をつけることは「差別する」「区別する」ことではありません。

障害について知ることは、その子どもへの「理解」を深めることです。

そして「差別」とは「排除」することです。

- 「障害」を持つ子どもにとって良い支援は、全ての子どもにとって良い支援です

障害がある、無いの境界はあいまいです。みんな苦手なところがあり、得意なところを持っています。お互いの違いを認め合い、助け合う社会を実現したいですね。